

コンサルテーション事業報告

事業の名称	学習障害支援事業	事業代表者	川崎 聡大
対 象	就学前児・中学生・大学生		
目 的	<p>【目的】 言語、学習、コミュニケーションに関する相談援助を通じて地域に研究知見を還元するとともに、対象児・者の「目の前の生活」をことばやコミュニケーションといった観点から少しでも有意義にしていくための方策について当事者や保護者たちとともに検討を深める。</p> <p>【内容】 相談援助：ことばの発達やコミュニケーション、発音に関する相談（就学前）や、併せて主訴に応じて短期介入的な指導を実施する（学歴）。併せて大学生の読みについて基礎的データを集約する。</p>		
実 施 日 実 施 回 数	不定期（相談内容によって2回～8回/1人） 実施概要に詳細を記載する		
実 施 場 所	心理演習室（5F）		
主なスタッフ	川崎聡大 川崎研究室指導学生等 松崎 泰（東北大学大学院教育学研究科博士後期課程） 菊池日菜子（東北大学教育学部3年） 竹内 皓紀（東北大学教育学部3年） 阿部 晴香（東北大学教育学部3年） ＊川崎研究室		

<p style="text-align: center;">ス タ ッ プ の 活 動 内 容 お よ び 実 施 実 績 概 要</p>	<p>相談援助：就学前児童を対象とした言語発達相談とことば（特に発音）に関する相談を実施した。学齢期に対しては、アセスメントを実施し発達障害に関連して障害特性に応じた書字指導と学業へのアドバイス（どのように授業や講義を受けるとよいか）を行った。</p> <p>教員指導の下、以下の内容に関わった</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 言語検査ならびに知能検査の実施（博士後期学生） ② 読みや書きの指導に関する指導計画の立案と教材作成（全員） ③ 指導や検査の合間の対象児童へのかかわり（全員） ④ 大学生の読みの基準値の作成（全員） <p>なお博士後期学生は母親ならびに保育士との面談にも関わった。</p> <p>【実施概要】 *個人が特定できる可能性があるため包括的に記載します 本年度相談援助の合計回数は24回（2回～12回/人）であり就学前が2件で継続的にフォローを行っている。対象の年齢は6歳から20歳であった。</p> <p>発音ややりとりの苦手さに関する相談 ：保育園より相談を受け、コミュニケーション面の主訴を持つ児童に対して言語機能検査やコミュニケーション面に冠する検査、発音の問題については構音検査を実施し問題を明らかにし①保育園での関わり方②課程での関わり方について指導するとともに、短期的な介入で改善が見込める問題（機能的構音障害）については指導を実施した。構音に冠する指導は/s//k/の産生に関する指導であり3ヶ月合計7回の指導（評価1回を除く）で問題は全て改善した。</p> <p>読み書きの苦手さに関する相談 当事者や保護者より相談を受け、発達障害の傾向を持つ方に対して神経心理学的検査を実施し認知的特性を明らかにした上で、漢字の書字に関する指導の実施、学校生活を送る上での対処方法等への助言指導を行った。継続的な指導を実施しつつ、当事者より希望を受けて相談にのる形をとっている。</p> <p>大学生の読み流暢性基準値の作成</p>
--	---